

令和5年度 木古内町当初予算の概要

一般会計は40億4,496万円

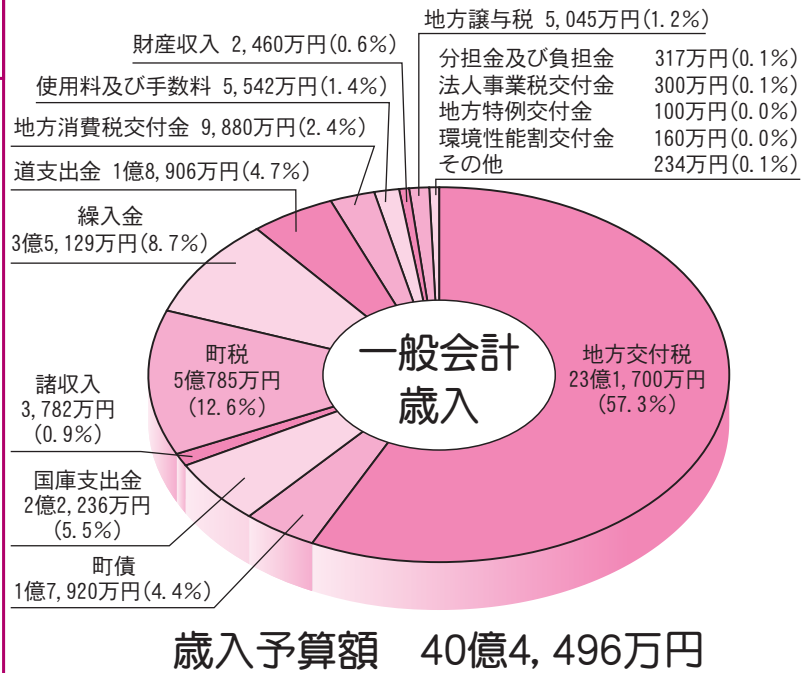
令和5年度当初予算編成は、産業会館設備改修事業や中小企業・小規模企業経営改善等支援事業補助金等の大型事業の終了により、一般会計が3年ぶりの減額となる40億4,496万円（前年比△5.4%）で2億3,163万円の減額、各事業会計・特別会計の合計は49億1,803万円（前年比+5.6%）で2億5,945万円の増額となっています。

歳入

財源不足を補う財政調整基金繰入金が増額

歳入予算は、地方交付税において、前年度の交付実績等を基に増収を見込み、前年度より6,500万円の増額となっています。基金繰入金の総額は、前年度から809万円増額の3億5,129万円となっていますが、このうち、資金不足を補うための財政調整基金（貯金）の取り崩しは、原油価格・物価高騰の影響に伴い、各施設電気料や燃料費が増額したほか、除雪費や設備機器等の保守委託などの業務委託にかかる経常経費の増額などにより、前年度より1,318万円多い2億1,132万円となっています。

また、町債（町の借金）については、前年度より1億4,620万円少ない1億7,920万円となっています。



歳出

デジタル関連事業、水道料金軽減事業を予算計上

歳出予算は、急速に進化する情報化社会への対応及び業務の効率化を図るためのデジタル関連事業を新規で予算計上しています。

総務費は、デジタル技術の活用等を推進するため、デジタル人材活用事業などを新たに計上しています。また、産業会館設備改修工事の減額などにより、前年度より1億7,627万円の減額となっています。

衛生費は、町民負担の軽減を図るため、水道基本料金軽減事業を新たに計上するなど、前年度から5,481万円の増額となっています。

教育費は、老朽化した中学校体育館屋根改修工事費や小・中学校の校務処理の効率化を図るための校務支援システムの導入及び教師用パソコンの更新費用など新たに計上し、前年度より4,704万円の増額となっています。

